

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

〇2日26日～

先週は日経平均が1989年につけた最高値を更新しました。

先週末には39000円を超えてきました。

そして、米国の株価指数の NY ダウやS&P500も史上最高値を更新して取引を終えています。

22日のエヌビディアの好決算を受けて、日米ともに大きく株価が上昇しました。

街角景気から考えると少し違和感のある株価上昇ですがインフレになると株価が上がっていくことも多く、株が上昇しているというより、貨幣価値が下落してきている状況なのかもしれません。

すでに日経平均は4万円を超えていくという話も出てきていますが短期的にはかなり加熱感が出ている状態なので、2月末から3月初めにかけて調整が入ると考えておいた方がよさそうです。

マーケットはリスクオン相場が続いていますが、流れがいつ変わるかわからないので注意しながら売買したいです。

そして、為替相場も年初からの円安トレンドが続いています。

再びドルが150円を超えてきたので、もしかするとドル／円も2022年、2023年の高値を超えて、152円のせの動きが出るかもしれません。

テクニカルで見ると151.9円の高値を明確に超えてくると、長期的にはさらなる上昇の可能性が出てくるので、月足や週足など長期のチャートの動きもしっかり確認しておきたいです。

先週発表された米国のインフレ指標が予想より高かったこともあり、米国の利下げは少し遠のいています。

利下げ時期については不透明感が増し、今後の米国のインフレ指標次第になりそうです。

今週は、1月のPCE(個人消費支出)総合価格指数などに注目が集まっています。

これも米国のインフレを見る上で重要な指標で、インフレ率が思ったよりも高い状態が続くとFRBも利下げに動けなくなります。

日本は4月以降、マイナス金利解除との予想が増えていますが4月を前に2月末から3月にかけてマーケットが荒っぽい動きになる可能性もあり、金融政策の行方を見ながら無理のないトレードをしたいです。

また、ウクライナが紛争に巻き込まれて2年が経ちましたが中東も含めて地政学的リスクについても気をつけておきたいです。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

<ドル／円>

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

先週のドル／円は149円台から150円台の狭い範囲での動きになりました。

下がってくると買いが入ってくるといことで、下値は固い印象ですが150円を超えてくると上値も限定的です。

また、151円付近では介入警戒感も高く、大きく上昇となりにくい状況です。

上値は150.9円を超えてくると151.9円を目指す動きになりそうですが急騰後の急落もあり得るので、リスク管理もしっかり考えておきたいです。

下値は、150円を割り込むと先週安値の149.5円あたりが意識されます。

149.5円を割り込むと148円、147円台後半あたりにもサポートがあるので、下げ止まれば買いを考えたいです。

<気になるクロス円>

クロス円も2月初めを底に上昇が続いているペアが多く、株価がリスクオンの動きをしている間は上昇が続く可能性があります。

ただし、そろそろ一旦の天井をつけてもおかしくないほど上昇が続いているため流れが急変するリスクも想定しながら高値買いは避けたいです。

ランド／円は週足で見ても陰線となっており、下げ止まるまで買いは様子見がよさそうです。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇／円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では1月全国消費者物価指数、1月鉱工業生産などがあります。

米国では1月新築住宅販売件数、1月耐久財受注、12月ケース・シラー米住宅価格指数、2月リッチモンド連銀製造業指数、2月消費者信頼感指数、10－12月期GDP(改定値)、1月個人消費支出(PCE)、前週分新規失業保険申請件数、2月シカゴ購買部協会景気指数、1月住宅販売保留指数、2月製造業PMI(改定値)、2月ISM製造業景況指数、2月ミシガン大学消費者信頼感指数などが発表されます。

欧州ではユーロ圏とドイツで2月消費者物価指数、2月製造業PMI(改定値)、ドイツで1月小売売上高などがあります。

ほかには、ニュージーランドで政策金利、カナダで10－12月期GDPの発表などがあります。